対象年度	平成31年度	総合計画実施計画策定及び行政評価シート
------	--------	----------------------------

事務事業名	本場結城紬振興事業					予算事業名	本場結城紬振興事業費					
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
			07	01	03	1103						経常経費
総合計画体系	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)						事業の区分	主要事業				
	3-5つちかわれた技術を継承する伝統産業の振興(伝統産業)							重点事業				
	②伝統産業の振興						担当課係等	商工観光課				
1伝統産業の振興						商工振興係						
事業期間	継続 (年度～ 年度)											

<p>【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】</p> <p>本場結城紬振興を目的に、本市の地域資源である「結城紬」を活用し、きもの文化及び結城紬の普及促進を図り、観光施策と結び付けることで、結城紬産地の活性化を図る。</p>	<p>【事業開始のきっかけや他市の状況など】</p> <p>生活様式の変化などの影響により、結城紬の生産数は減少が続いている。平成27年度より結城紬きもの貸出事業を本格的に開始。小山市でも、平成28年度より、駅前クラフト館にて同様の事業を実施している。</p>
---	---

<p>【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】</p> <p>駅前の観光物産センターにおいて、結城紬の地場織り実演を茨城県本場結城紬織物協同組合に委託し実施する。 市民や観光客を対象に、結城紬きもの貸出事業をゆうき着楽会に委託し実施する。 結城紬きもの貸出事業やイベント等に使用する市所有の結城紬について、結城紬きもの仕立て・整理等を行う。 着付け講座及び結城紬に関する講習会を開催することで、和装文化や結城紬の歴史に対する市民の関心を深めるとともに次世代の担い手を育成する。各種イベントにおいて結城紬着心地体験を実施し、結城紬や本市のPRを行う。 結城紬各団体にに対し、結城紬振興事業の支援を行うことで、製品の販路拡大及び産地の安定を図る。</p>	<p>【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】</p> <p>市民・観光客 「結城紬」関連組合</p> <p>【事業をとりまく環境の変化】</p> <p>平成27年度に結城紬きもの貸出事業が本格的に実施され、ゆうき紬着付け処『着楽』が駅前情報センターに設置された。 平成28年度には、地方創生加速化交付金を活用した結城紬ブランディング事業により、結城市伝統工芸館がリニューアルされ、結城紬を地域資源として活用した事業が展開されている。</p>
---	---

【平成31年度 事業内容】	【平成32年度 事業内容】	【平成33年度 事業内容】
結城紬機織り実演事業、結城紬きもの貸出事業、着付け講座を実施。各種イベントにて結城紬着心地体験を実施。	結城紬機織り実演事業、結城紬きもの貸出事業、着付け講座を実施。各種イベントにて結城紬着心地体験を実施。	結城紬機織り実演事業、結城紬きもの貸出事業、着付け講座を実施。各種イベントにて結城紬着心地体験を実施。

■事業費

		H29年度	H30年度			
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	県支出金	0	0			
	地方債	0	0			
	その他	5,000	5,000			
	一般財源	8,122	8,368			
歳入計(千円)		13,122	13,368			
歳出内訳	節(番号+名称)	金額(千円)	金額(千円)			
	08 報償費	175	250			
	11 需用費	139	150			
	12 役務費	356	671			
	13 委託料	4,649	4,267			
	14 使用料及び賃借料	21	47			
	16 原材料費	411	500			
	18 備品購入費	194	206			
	19 負担金補助及び交付金	2,177	2,277			
	21 貸付金	5,000	5,000			
	歳出計(千円)(A)		13,122	13,368		
伸び率(%)			1.87			

備考	総合計画 109, 110ページ 予算書 127ページ					
----	-----------------------------	--	--	--	--	--

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指標名	単位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	結城紬機織り実演	箇所	目標	2.00	2.00	2.00
	H29より伝統工芸館でも実施		実績	2.00	0.00	0.00
	市所有結城紬きもの枚数	枚	目標	40.00	50.00	55.00
	機織り実演事業及び原材料支給による成果品を仕立て、貸出事業で活用する。		実績	45.00	0.00	0.00
成果 指標	結城市伝統工芸館来館者数	人	目標	700.00	2,000.00	2,200.00
			実績	1,984.00	0.00	0.00
	結城紬きもの貸出件数	件	目標	60.00	60.00	80.00
			実績	74.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	結城紬は本市における最も重要な地域資源であり、必要性は非常に高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	ユネスコ無形文化遺産にも登録された結城紬を活用した事業を、市が実施する意義は高い。
	手段の妥当性	A 妥当である	機織り実演事業や、きもの貸出事業については、それぞれ専門家団体に委託しており、それ以外に実施可能な団体はない。結城紬振興事業についても同様である。
効率性	コストの効率性・人員効率	C 改善の余地はある	結城紬各団体について経費の見直す必要がある。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	広く一般市民・観光客に対する事業を行っている。補助事業については、その目的のため受益者は限定される。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	結城紬の振興に対して、これまで様々な施策を講じてはいるが、結城紬従事者や生産反数の減少が続くなど、結果として、産地振興に現れていない面がある。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	結城紬機織り実演事業については、その成果物（反物）を本事業においてきものに仕立てることで、貸出事業の充実につながっている。結城紬きもの貸出事業については、ゆうき着楽会と連携しながら、事業のブラッシュアップを図っている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
物産センターについては、機織り実演のみで、伝統工芸館については伝統工芸士による実演（機織り・糸つむぎ）を実施している。観光客からは実演に深く興味を持たれ体験へ繋げており、結城紬のPRに貢献している。結城紬きもの貸出事業は順調に推移しており、ゆうき着楽会独自事業として、土日祝日に“ふらり結城紬着心地体験”も実施している。首都圏イベントでの効果がでているのか、東京・横浜・千葉・長野県からの観光客誘客に繋がっている。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
機織り実演について、特に伝統工芸館においては、繁忙期には土日以外の実演も検討する必要がある。きもの貸出事業については、委託先のゆうき着楽会と連携し体制を強化しつつ、着心地体験+αのイベントの実施など事業の拡大に努め、SNS等を積極的に活用し情報発信を図る。上記の2委託事業については、委託団体と連携を密にして事業を実施しており、今後も関係性を重要視する。補助金の交付については、各団体の実施内容をよく確認し、協議することで、適正な事業実施を指導する。結城紬を見る、触れる、体験する機会を積極的に設け、結城紬のPRを続けることで、産地の活性化につなげていく。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 生産反数の向上につながるのには少々困難であると認識しているが、業界が活性化するよう継続して行っていく。着心地体験や織りの実演についてはさらに充実させて実施していく。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。